

## 地域一体となって、被災地の復興を

### ◆リレー寄稿 見えない恐怖に立ち向かう



郡山医療生協  
専務理事 宮田 育治氏

郡山医療生協ではチェルノブイリ視察から学び、坪井病院長を所長に、核害対策室「くわの」を立ち上げ、長期にわたる取り組みの準備を進めています。

取り組む理念は「主権在民」です。キーワードは「情報と教育」、そして「可視化」です。

対策室の活動は、以下の5つです。

- ①情報の収集と発信
- ②放射線防護の学習企画、推進、窓口
- ③放射能に関わる健康相談窓口
- ④食品汚染度測定と体内被ばく測定
- ⑤食生活や健康プログラムの開発

また、この間、1万カ所を超える線量測定、線量マップの作成作成を行ないました。学習会も累計100回以上（参加者7,000人以上）開催し、ひまわり運動の展開、除染活動、子ども保養企画の実施など全国の支援と連帯に支えられ、必死で取り組んできました。

この地に住み続け、福島を取り戻すために。全国の仲間の一層のご支援とご協力をお願いします。

ならコープでは、東日本大震災、2011年9月の台風12号・15号の被災地への継続した支援活動を行なっています。

みやぎ生協、コープふくしまへの移動販売車の提供をはじめ、福島県生協連・福島大学災害復興研究所主催の「福島の子どもの保養プロジェクト」に個人線量計、ベンチのない仮設住宅にベンチ15基を寄贈するなど、被災地に寄り添った支援を行なっています。また、毎月11日を「震災を考える日」としてチャリティイベントや学習会を開催。また、台風の際は、被災地に支援物資などをお届けし、「生協が一番先に来てくれた」と喜ばれました。「みんなで見る夢は必ず実現するものと考えています」。この言葉が語られる、ならコープの被災地支援活動をまとめた動画は、こちらのURLから視聴可能です。



(<http://www.ein-g.co.jp/asp/nara/news.asp?mode=REF&job=LATEST&iid=626>)



コープふくしま移動販売車出発式の様子。



台風の被害を受けた天川村での炊き出し支援隊。

## <ひと>

### 「誰かのために、 えんやこーら」



「えんやこーら」  
広報・会計担当 工藤 真弓さん



(えんやこーら岩手支部記録 <http://fly-on-the-wind.seesaa.net/>)

「えんやこーら」は、有志のボランティア団体。いわて生協が行っていた※バスボランティアの常連参加者の中から立ち上がり、現在は火曜を除き、ほぼ毎日、岩手県陸前高田市にて活動を行なっています。活動は、広場作り、仮設店舗の建設など、多岐に渡ります。

継続した支援活動のために陸前高田の仮設住宅に入居が決まった阿部義郎さん（ショベルカーを巧みに操る）をはじめ、毎日片道2時間半かけてボランティアに通っている方、静岡から陸前高田に移り活動をされている方など、さまざまな方が参加されています。

工藤さんは、平日は仕事、休日は陸前高田でボランティア活動をしています。

「私たちのことを待っていてくれる人たちがいる。前向きになつてもらおう土台作りができたかと思っています」

最後に、全国の皆さんに伝えたいことを聞くと、ずいぶんと考えた末、「何だろう。言葉にならないですね…」。

工藤さんの目には、復興のために休みなくボランティアを行なう仲間の姿、陸前高田の方々の姿が映っていたのだろう。自分には何ができるか。悩みながらも、仲間たちに支えられ、工藤さんの活動は続いていく。

※バスボランティアは、12月末で一旦終了。

3月再開予定。

### 【一言メッセージ】

- ・ 来週もまた来てね、と言われると、生協は期待されているんだなと思います。(宮城・Tさん)
- ・ 地元の企業で勤めたいけど、離れたところには仕事がないんです。(岩手・Fさん)